

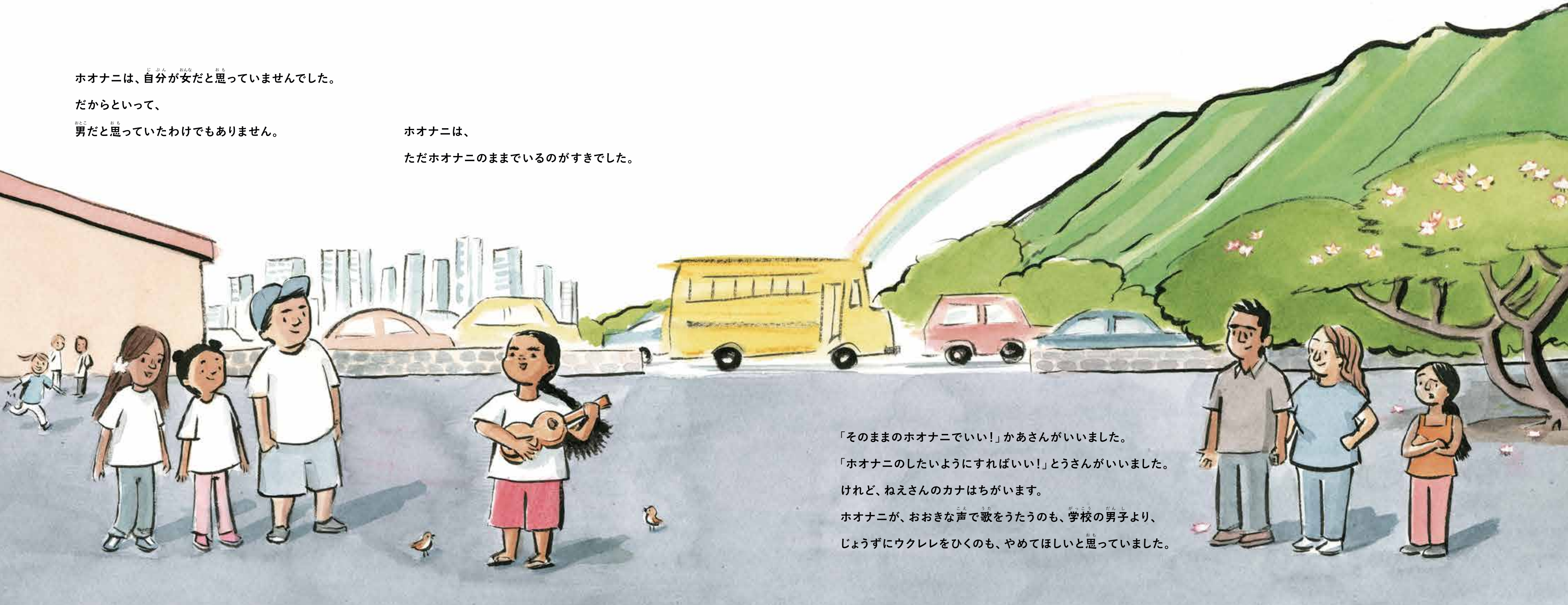
ホオナニは、自分が女だと思っていませんでした。

だからといって、

男だと思っていたわけでもありません。

ホオナニは、

ただホオナニのままがいいのが好きでした。



「そのままのホオナニでいい！」かあさんがいました。

「ホオナニのしたようにすればいい！」とうさんがいました。

けれど、ねえさんのカナはちがいます。

ホオナニが、おおきな声で歌をうたうのも、学校の男子より、  
じょうずにウクレレをひくのも、やめてほしいと思っていました。

ある朝のことです。

ホオナニの学校の先生、クム・ヒナが生徒みんなに発表しました。

「ことしの、この地区のイベントは、ハワイの伝統文化がテーマになりました」

つづけて、ヒナ先生はいいます。

「わたしたちの学校は、高校生の男子に、  
古典フラをおどってもらいます」

